

【雲南市立病院建設基本構想】

◆資料編

目 次

1	地域の特性	1
2	雲南医療圏の病院・診療所配置マップ	2
3	雲南医療圏の福祉施設配置マップ	3
4	人 口	4
	(1) 雲南医療圏の人口	
	(2) 雲南医療圏の人口推計	
	(3) 雲南市の人口推移	
5	人口動態	7
6	疾病の状況	8
	(1) 患者数	
	(2) 受療率	
	(3) 人口の推移からの患者数見込み	
7	医療施設の状況	11
	(1) 病院、診療所の施設数と病床数	
	(2) 病院病床の利用状況	
8	二次医療圏の受療動向	13
9	市立病院の診療体制	14
	(1) 病床数の推移	
	(2) 診療科の状況	
	(3) 常勤医師数の推移	
	(4) 職員数の推移	
	(5) 外来患者の推移	
	(6) 入院患者の推移	
10	市立病院の概要	19
	(1) 病院の概要	
	(2) 指定・認定関係	
	(3) 決算の状況	
	(4) 組織・機構図（平成24年度）	
11	市立病院の施設の状況	24
12	主な施設機能等の変更点	27

1 地域の特性

雲南医療圏は、雲南市、仁多郡奥出雲町、飯石郡飯南町の1市2町からなり、面積は1,164km²で県面積の17.4%を占めています。

島根県の東中部に位置し、東は安来市・鳥取県に、西は大田市・邑智郡美郷町に、南は広島県に、北は出雲市・松江市に面しています。

また、市立病院の所在地である雲南市は出雲市、松江市に隣接しており、市立病院から隣接市へは自動車ですら30分の距離です。

中国山地から伸びる支脈や浸食が入り組んだ複雑な地形を示し、中央を流れる一級河川斐伊川とその支流の流域に集落が点在し、平野は極めて少なく、約8割を林野が占める中山間地です。

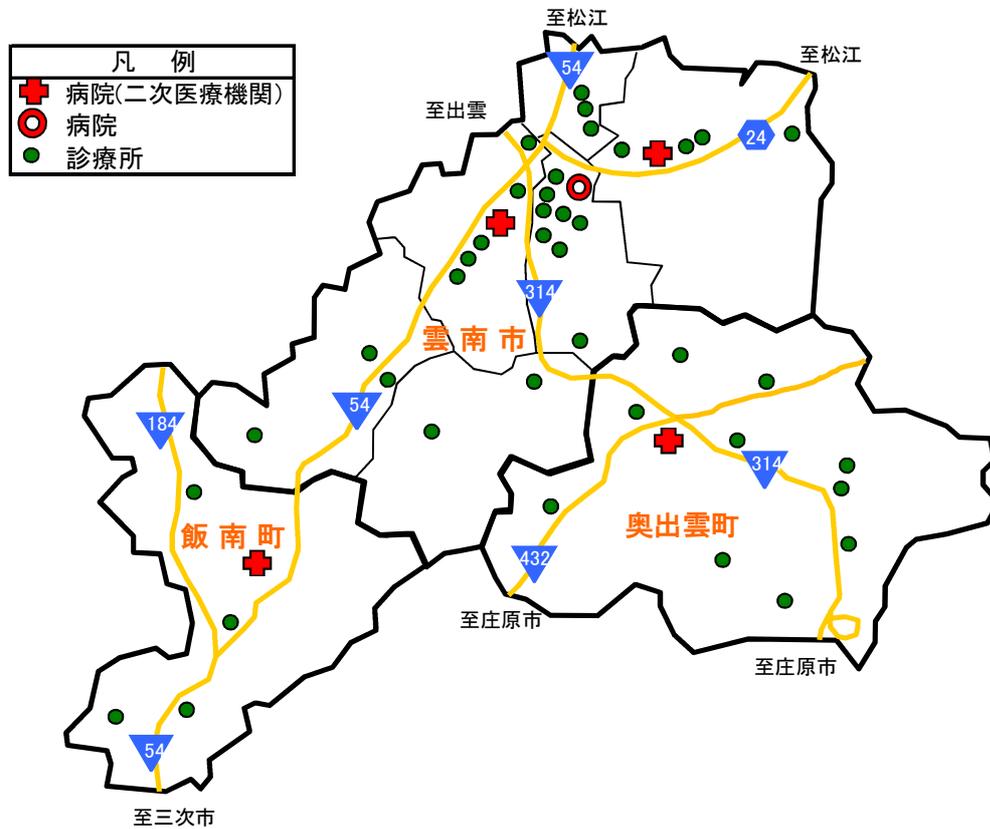
公共交通機関は、鉄道JR木次線と市町直営による生活路線バスが中心であり、主要道路は国道54号が南北に、国道314号が東西に整備されています。また、高速道路山陰自動車道・松江自動車道が松江から吉田・掛合まで供用開始され、広島への高速道路の整備が進められています。

※雲南医療圏周辺図



2 雲南医療圏の病院・診療所配置マップ

雲南医療圏には、5つの病院、39の一般診療所(事業所の診療所を除く。)があります。特に市立病院を始め、三刀屋町に平成記念病院、奥出雲町に町立奥出雲病院、飯南町に町立飯南病院の4つの二次医療機関がバランスよく配置されています。



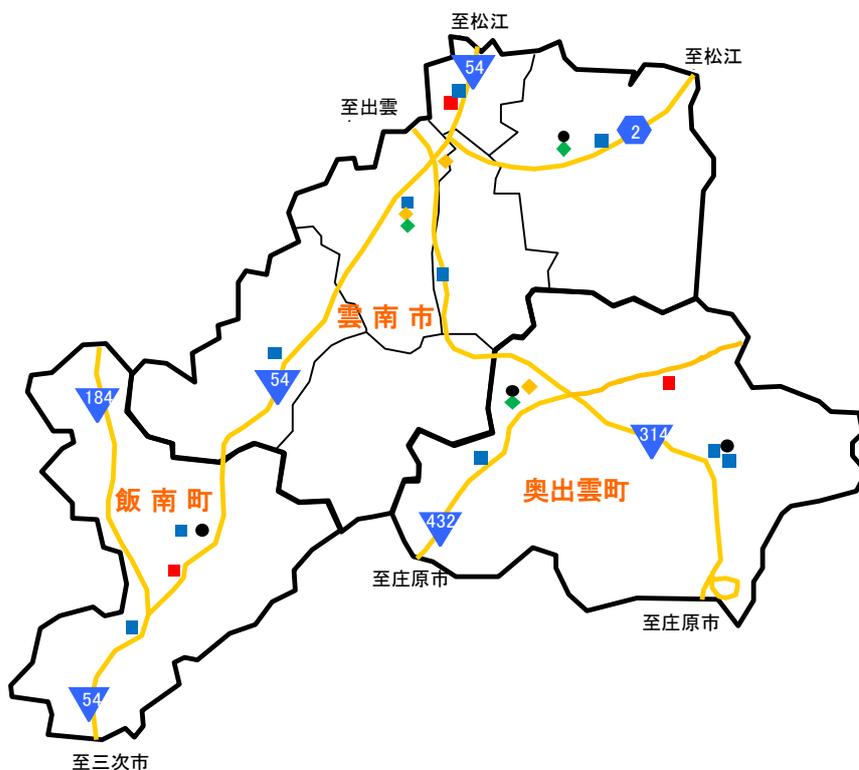
●病院一覧表

(平成24年1月1日現在)

市町名	病 院							一般 診療所数
	施 設 名 称	許 可 病 床 数						
		精神	感染症	療養	一般	合計		
雲 南 市	大東町	雲南市立病院		4	78	199	281	4
	加茂町							3
	木次町	奥出雲コスモ病院	100				100	8
	三刀屋町	平成記念病院			56	60	116	5
	吉田町							2
	掛合町							3
奥出雲町	町立奥出雲病院			60	98	158	10	
飯南町	飯南町立飯南病院				48	48	4	
雲南医療圏計			100	4	194	405	703	39

3 雲南医療圏の介護・福祉施設配置マップ

雲南医療圏には、様々な介護・福祉施設が配置されています。



※主な介護・福祉施設

事業種別	施設名	設置数
■ 養護老人ホーム	宇寿荘	80人定員
	玉峰苑	50人定員
	琴引の里	78人定員
■ 特別養護老人ホーム	むらくも苑	50人定員
	あいサンホーム	50人定員
	簸の上園	70人定員
	さくら苑	70人定員
	笑寿苑	70人定員
	梅里苑	70人定員
	愛寿園	80人定員
	あかぎの里	40人定員
	えがおの里	50人定員
	〃 地域密着型	サテライトむらくも
◆ 介護老人保健施設	ケアセンターきすき	60人定員
	平成苑	50人定員
	奥出雲介護老人保健施設	81人定員
◆ 介護療養型医療施設	平成記念病院	24病床
	町立奥出雲病院	36病床
	雲南市立病院	48病床
● 訪問看護	奥出雲訪問看護ステーションにた	
	訪問看護ステーションまごころ	
	訪問看護ステーションうんなん	
	飯南町訪問看護ステーション	

※参考

事業種別	雲南市	奥出雲町	飯南町
指定居宅サービス事業所数			
訪問介護	11	3	2
訪問入浴介護	2		
通所介護	13	4	4
通所リハビリ	2	1	
福祉用具貸与	5	1	
短期入所生活	5	2	2
短期入所療養	4	2	
予防短期生活	5	2	2
予防短期療養	2	2	
福祉用具販売	5	1	
居宅介護支援	18	3	4
予防福祉販売	5		
予防支援	1	1	1
予防訪問介護	11	2	2
予防訪問入浴	2		
予防訪問看護	1	1	1
予防通所介護	13	2	4
予防通所リハ	1	1	
予防福祉貸与	5	1	
地域密着型サービス事業所数			
認知症共同生活	3	1	2
予防認知共同	2	1	2
認知通所介護	7	1	1
小規模居宅	4		2
予防認知通所	5	1	1
予防小規模居宅	2		2

4 人 口

(1) 雲南医療圏の人口

- 昭和35年国勢調査で104,774人であった人口は、その後当圏域の全市町で減少し、平成22年圏域内の総人口は61,907人で、平成17年国勢調査時に比べ4,287人の減少となっています。
- 年齢階級別にみると0～14歳の比率は年々減少し、平成22年の年少人口比率は11.7%で、若年層の減少が加速しています。
- 一方、人口に占める65歳以上の比率は年々増加し、平成22年の65歳以上の老年人口比率は34.3%で、島根県の29.1%を上回っており、高齢化が進んでいます。

雲南圏域の年齢階級別人口の推移

	人口(人)				割合(%)			島根県65歳以上の割合(%)
	総数	0～14歳	15～64歳	65歳～	0～14歳	15～64歳	65歳～	
昭和 35	104,774	36,622	59,639	8,513	35.0	56.9	8.1	8.4
40	94,216	27,656	57,387	9,173	29.4	60.9	9.7	9.7
45	83,696	20,251	53,522	9,923	24.2	63.9	11.9	11.2
50	78,957	16,951	51,389	10,615	21.5	65.1	13.4	12.5
55	78,305	15,965	50,520	11,820	20.4	64.5	15.1	13.7
60	77,337	15,468	48,451	13,418	20.0	62.6	17.4	15.3
平成 2	75,043	13,731	45,425	15,881	18.3	60.5	21.2	18.2
7	72,567	11,719	42,132	18,713	16.1	58.1	25.8	21.7
12	69,553	9,791	38,890	20,871	14.1	55.9	30.0	24.8
17	66,194	8,483	36,063	21,629	12.8	54.5	32.7	27.1
22	61,907	7,271	33,350	21,262	11.7	53.9	34.3	29.1

(注) 「総数」には年齢不詳を含む。
資料: 「国勢調査」(総務省統計局)

人口及び面積

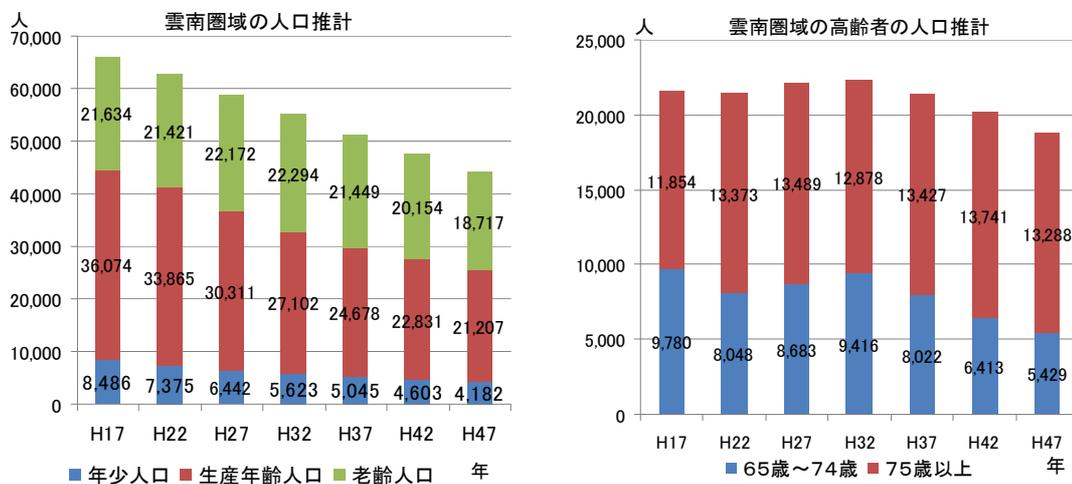
	人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)	年齢別人口割合(%)		
				0～14歳	15～64歳	65歳～
島根県	712,336	6,707.96	106.19	12.9	58.1	29.0
雲南圏域	60,851	1,164.27	52.27	11.7	54.0	34.3
雲南市	41,159	553.37	74.38	12.1	54.9	33.0
奥出雲町	14,238	368.06	38.68	10.9	52.8	36.4
飯南町	5,454	242.84	22.46	10.8	50.5	38.7

資料: 「平成23年島根の人口移動と推計人口」(県統計調査課)
「平成23年全国都道府県市区町村別面積調」(国土交通省国土地理院)

(2) 雲南医療圏の人口推計

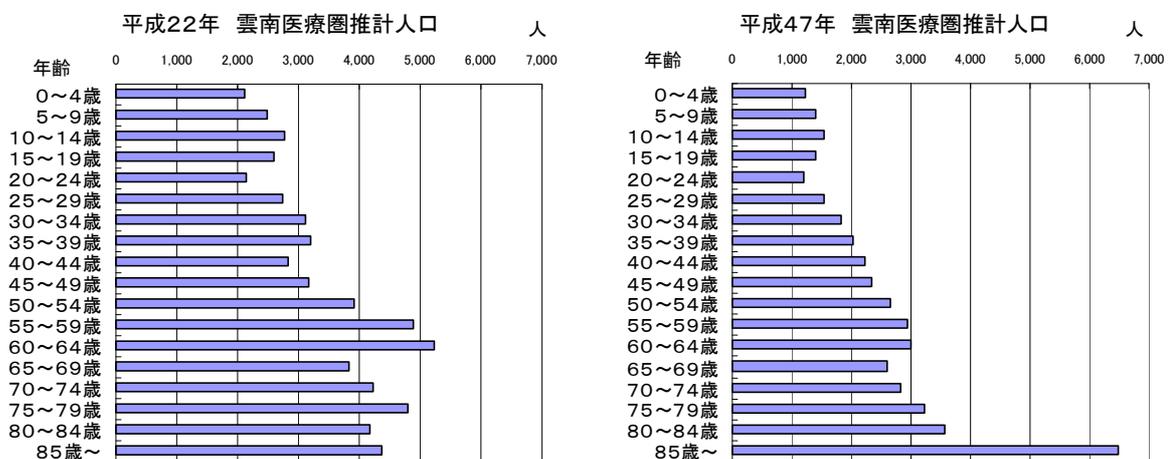
- 雲南医療圏における二次医療機関は、雲南市立病院のほか、市内には平成記念病院、奥出雲町及び飯南町にそれぞれ公立病院が存在します。市立病院の将来患者数を推計する上では、雲南市の人口に併せ雲南圏域内の人口を基礎とする必要性があり、雲南圏域1市2町の将来人口を、国勢調査のデータをもとに推計しました。
- 総人口は減少傾向にあり、平成22年(62,661人)から平成47年(44,106人)までの25年間で18,555人、約29.6%の減少が見込まれます。
- 一方、高齢化率は上昇傾向にあり、平成47年には高齢化率が42.4%になると見込まれます。特に75歳以上の人口は、増減はあるものの、ほぼ横ばいで推移すると見込まれます。

※ 図表 「雲南医療圏の人口、高齢者人口の推計（平成17年～平成47年）」



- また、5歳区分毎の人口構成を平成22年と平成47年で比較してみると、60～64歳にあった人口のピークが25年後に85歳以上の層に移り、かつ出産可能人口の減少により全体の人口が減少していく様子がよくわかります。

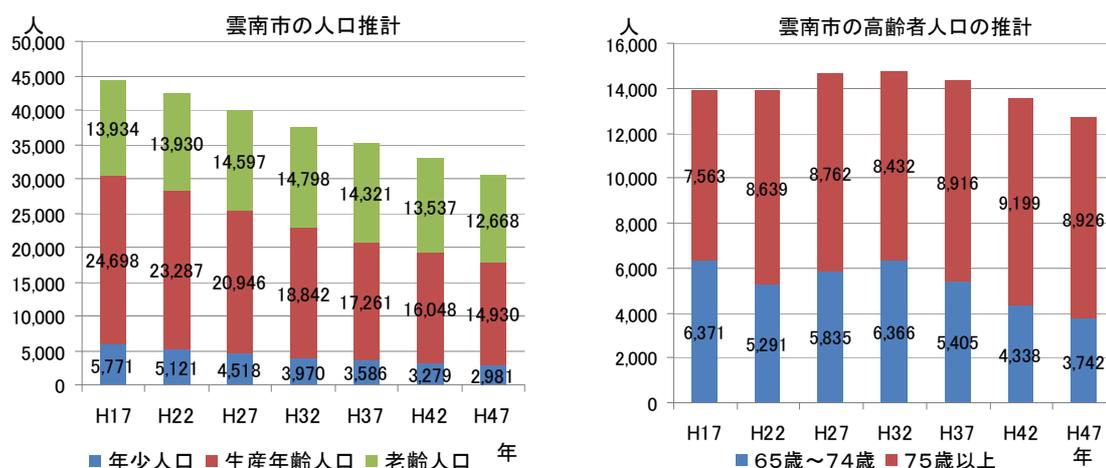
※ 図表 「雲南医療圏の推計人口（平成22年・平成47年）」



(3) 雲南市の人口推移

- 雲南市の人口は、平成 22 年(42,338 人)から平成 47 年(30,579 人)までの 25 年間で 11,759 人、約 27.8%の減少が見込まれます。
- 特に、年少人口(0 歳～14 歳)においては 41.7%、生産年齢人口(15 歳～64 歳)は 35.9%の減少が見込まれています。
- 対照的に高齢人口は、9.1%の小幅な減少となっており、中でも 75 歳以上の人口は、3.3%の増となっています。この 25 年間に於いて増減はあるものの、ほぼ横ばいで推移すると見込まれています。

※ 図表 「雲南市の人口、高齢者人口の推計（平成 17 年～平成 47 年）」



◆統計数値について

人口推計については、平成 20 年 12 月に国立社会保障・人口問題研究所が公表した「日本の都道府県別将来人口」の数値を用いた。この推計は、平成 17 年（2005 年）の国勢調査を踏まえ、主にコーホート要因法によりある年の男女・年齢別人口を基準として、人口動態率や移動率などの仮定値を当てはめて将来人口を推計する方法で算出したものである。また、平成 17 年までの実績値を基に平成 47 年（2035 年）までの 5 年ごとの予測値を公表されている。

平成 22 年の雲南市の推計人口 42,336 人は、平成 22 年国勢調査速報値 41,927 人と比較し速報値で 409 人下回っている。また、雲南市基本計画においては、平成 26 年度の定住人口の目標値を 45,000 人としているが、今基本構想においては、国立社会保障・人口問題研究所が公表した数値を基に将来患者数等を推計することとした。

5 人口動態

- 当圏域では、平成2年に死亡数（719人）が出生数（682人）を初めて上回り、平成21年には533人の自然減となっています。
- 出生率（人口千対）は6.7で県平均（7.8）と比べて低くなっています。また、合計特殊出生率^{*}も1.5で7圏域では一番低くなっています。
- 粗死亡率（人口千対）は12.3で県平均（11.5）と比べて高いですが、年齢調整死亡率^{*}では7圏域のうち4番目に低くなっています。

二次医療圏別人口動態統計

	平成22年			平成20年～22年平均(但し、全国は平成22年)			
	出生数	死亡数	自然増加数	乳児死亡数	新生児死亡数	周産期死亡数	
全国	1,071,304	1,197,012	-125,708	2,450	1,167	4,515	
島根県	5,756	9,109	-3,353	11.7	6.0	23.7	
二次医療圏	松江	2,165	2,740	-575	3.7	1.3	7.3
	雲南	363	978	-615	0.7	0.3	1.3
	出雲	1,560	1,851	-291	3.7	2.0	8.0
	大田	411	1,040	-629	1.3	0.3	1.0
	浜田	642	1,241	-599	1.7	1.3	3.0
	益田	465	889	-424	0.7	0.7	2.0
	隠岐	150	370	-220	0.0	0.0	1.0

	平成22年				平成20年～22年平均(但し、全国は平成22年)				
	出生率	合計特殊出生率	死亡率	自然増加率	年齢調整死亡率	乳児死亡率	新生児死亡率	周産期死亡率	
全国	8.5	1.4	9.5	-1.0	-	2.3	1.1	4.2	
島根県	8.1	1.7	12.8	-4.7	385.2	2.1	1.1	4.2	
二次医療圏	松江	8.8	1.6	11.2	-2.3	379.7	1.7	0.6	3.4
	雲南	5.9	1.5	15.9	-10.0	390.4	1.7	0.8	3.3
	出雲	9.2	1.7	10.9	-1.7	368.3	2.4	1.3	5.2
	大田	7.0	2.0	17.7	-10.7	399.9	3.3	0.8	2.5
	浜田	7.4	1.7	14.4	-6.9	421.4	2.8	2.2	5.0
	益田	7.2	1.8	13.7	-6.5	387.9	1.4	1.4	4.3
	隠岐	6.9	1.9	17.1	-10.2	394.4	0.0	0.0	7.1

(注) 1. 出生率・粗死亡率・自然増加率は人口千に対する数、年齢調整死亡率は人口10万に対する数、乳児死亡率、新生児死亡率は出生数千に対する数、周産期死亡率は出産(出生+妊娠満22週以後の死産)千に対する数。

2. 率の算出にあたっては、平成15年推計人口・平成16年推計人口・平成17年国勢調査人口を利用。

3. 圏域は合併後の市町村で算出した。

資料:「人口動態統計」(厚生労働省)

* 合計特殊出生率

15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生涯の間に生むとした時の平均子ども数。

* 年齢調整死亡率

年齢構成に差がある集団間で死亡率を比較すると、高齢者の多い集団では高くなり、若年者の多い集団では低くなる傾向がある。このような年齢構成の異なる集団間で死亡状況の比較ができるように年齢構成を調整し、そろえた死亡率が年齢調整死亡率である。これを用いることによって、より正確に地域比較や年次比較をすることができる。

6 疾病の状況

(1) 患者数

- 平成20年島根県患者調査（特定の1日間における医療機関に受診した患者数）によると、圏域内の病院を受診した全患者数は1,379人で、平成17年の調査と比較すると343人減少しています。

病院の患者数推移

(上段:人/下段:%)

	雲南圏域			島根県		
	総数	入院	外来	総数	入院	外来
平成8年	1,966	614	1,352	24,812	10,304	14,508
	100.0	31.2	68.8	100.0	41.5	58.5
平成11年	1,812	667	1,145	24,013	10,579	13,434
	100.0	36.8	63.2	100.0	44.1	55.9
平成14年	2,443	1,033	1,410	22,434	10,329	12,105
	100.0	42.3	57.7	100.0	46.0	54.0
平成17年	1,722	644	1,078	21,401	10,393	11,008
	100.0	37.4	62.6	100.0	48.6	51.4
平成20年	1,379	603	776	19,832	9,622	10,210
	100.0	43.7	56.3	100.0	48.5	51.5

(注) 1. 上段は患者数、下段は割合である。

2. 各年10月のうちの1日調査である。

資料:「患者調査」(厚生労働省)、「島根県患者調査」(県健康福祉総務課)

(2) 受療率

- 平成20年島根県患者調査によると、雲南圏域医療機関における受療率（人口10万対患者数）は、3,714で県平均（3,399）より高くなっています。
- 傷病分類別にみると、循環器系の疾患の割合が最も高く18.1%、続いて精神及び行動の障害(11.9%)、筋骨格系及び結合組織の疾患(9.8%)、新生物(8.0%)の順です。

雲南圏域患者受療率(人口10万対患者数)

	全施設	病院	一般診療所	歯科診療所
雲南圏域	3,714	3,248	450	16
島根県	3,399	2,735	678	70

(注) 1. 圏域患者は雲南圏域に住所のある患者が島根県内の医療機関で受療した数である。

2. 平成20年10月のうちの1日調査である。

3. 調査対象医療機関は、県内全ての病院と無作為抽出された一般診療所及び歯科診療所です。

資料:「平成20年島根県患者調査」(県健康福祉総務課)

患者住所地別傷病分類別受療率(人口10万対患者数)

疾病名	雲南圏域			島根県		
	患者数 (人)	割合 (%)	受療率	患者数 (人)	割合 (%)	受療率
総数	2,360	100.0	3,714	24,647	100.0	3,399
感染症及び寄生虫症	40	1.7	63	536	2.2	74
新生物	189	8.0	297	2,035	8.3	281
血液及び造血器の疾患、免疫機構障害	14	0.6	22	133	0.5	18
内分泌、栄養及び代謝疾患	116	4.9	183	1,414	5.7	195
精神及び行動の障害	280	11.9	441	3,127	12.7	431
神経系の疾患	138	5.8	217	1,588	6.4	219
眼及び付属器の疾患	66	2.8	104	598	2.4	82
耳及び乳様突起の疾患	33	1.4	52	265	1.1	37
循環器系の疾患	428	18.1	674	4,175	16.9	576
呼吸器系の疾患	162	6.9	255	1,689	6.9	233
消化器系の疾患	160	6.8	252	1,503	6.1	207
皮膚及び皮下組織の疾患	35	1.5	55	479	1.9	66
筋骨格系及び結合組織の疾患	231	9.8	364	2,568	10.4	354
尿路性器系の疾患	126	5.3	198	1,176	4.8	162
妊娠、分娩及び産じょく	9	0.4	14	184	0.7	25
周産期に発生した病態	5	0.2	8	36	0.1	5
先天奇形、変形及び染色体異常	10	0.4	16	77	0.3	11
症状等で他に分類されないもの	51	2.2	80	373	1.5	51
損傷、中毒その他の外因	167	7.1	263	1,658	6.7	229
保健サービスの利用等	100	4.2	157	1,033	4.2	142

(注) 1. 県内医療機関で受療した患者である。

2. 平成20年10月のうちの1日調査である。

3. 調査対象医療機関は、県内全ての病院と無作為抽出された一般診療所及び歯科診療所である。

資料:「平成20年島根県患者調査」(県健康福祉総務課)



(3) 人口の推移からの患者数見込み

雲南医療圏の人口推計に基づき、今後の患者数の見込みを推計してみました。

- 全体患者数は、高齢者人口が維持されることにより、平成37年までは現状の約9割を維持し、平成47年においても現状の約2割強の減少にとどまっています。このように人口の推移に併せ、患者数の減少は見込まれるものの、大幅な減少にはならないと考えられます。
- しかし、年少人口の減少は小児科の維持、生産年齢人口の減少は産婦人科における出産等の維持に影響を与え、医療費収益の減につながることも考えられます。
- また、今後の在宅医療への方向性や介護保険事業の取り組み、入院期間の短縮など医療環境の変化により影響があるものと考えられます。

※ 表 「雲南医療圏の患者数の見込み（平成27年～平成47年）」

区 分	平成20年 患者調査	患 者 数 推 計				
	患者数	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年
年少(0～14歳)	136人	119人	104人	93人	85人	77人
生産(15～64歳)	651人	583人	521人	474人	439人	408人
老齢(65歳以上)	1,277人	1,322人	1,329人	1,279人	1,201人	1,116人
計	2,064人	2,023人	1,954人	1,846人	1,725人	1,601人
対22年人口比		98.00%	94.70%	89.40%	83.60%	77.50%

患者数:平成20年島根県患者調査「第9表-1 患者数;傷病分類・年齢階級・患者住所地(二次医療圏)別(病院)」の数値で、基準日の10月1日における雲南医療圏内の病院における患者数

※ 患者数推計:平成20年島根県患者調査における雲南医療圏患者数を基準に、平成22年の雲南医療圏の人口を100として推計した

7 医療施設の状況

(1) 病院、診療所の施設数と病床数

- 当圏域の平成21年10月1日現在の医療施設の状況は、病院5施設、一般診療所59施設、歯科診療所23施設で近年の大きな変化はありません。
- 人口10万対の施設数の一般診療所は、県内で最も低い状況です。
- 人口10万対の病床数は、病院、一般診療所とも県平均よりかなり低い状況です。

医療圏別医療施設数及び病床数

	病院									一般診療所				歯科診療所施設数	
	施設数			病床数						施設数			病床数		
	総数	精神	一般	総数	精神	感染症	結核	療養	一般	総数	有床	無床			
全国	8,739	1,083	7,655	1,601,476	348,121	1,757	8,924	336,273	906,401	99,635	11,072	88,563	141,817	68,097	
島根県	56	7	49	11,673	2,492	28	33	2,426	6,694	751	68	683	866	285	
一次医療圏	松江	17	2	15	4,237	963	4	25	664	2,581	248	20	228	234	97
	雲南	5	1	4	756	150	4	-	194	408	59	-	59	-	23
	出雲	11	2	9	2,790	488	6	-	559	1,737	171	18	153	204	59
	大田	5	-	5	832	168	4	-	255	405	79	9	70	142	23
	浜田	11	1	10	1,571	470	4	-	330	767	94	17	77	224	39
	益田	5	1	4	1,293	215	4	8	400	666	77	3	74	56	33
	隠岐	2	-	2	194	38	2	-	24	130	23	1	22	6	11

(注) 平成21年10月1日現在。

資料:「平成21年度医療施設調査」(厚生労働省)

医療圏別医療施設数及び病床数

	人口10万対施設数			人口10万対病床数							
	病院	一般診療所	歯科診療所	病院					一般診療所		
				精神	感染症	結核	療養	一般			
全国	6.9	78.1	53.4	1,256.0	273.0	1.4	7.0	263.7	710.8	111.2	
島根県	7.8	104.6	39.7	1,625.8	347.1	3.9	4.6	337.9	932.3	120.6	
一次医療圏	松江	6.8	98.8	38.6	1,687.9	383.6	1.6	10.0	264.5	1,028.2	93.2
	雲南	8.0	94.1	36.7	1,206.3	239.4	6.4	-	309.6	651.0	-
	出雲	6.4	99.0	34.2	1,615.1	282.5	3.5	-	323.6	1,005.5	118.1
	大田	8.3	131.6	38.3	1,385.8	279.8	6.7	-	424.7	674.6	236.5
	浜田	12.7	108.9	45.2	1,820.8	544.7	4.6	-	382.5	888.9	259.6
	益田	7.6	117.6	50.4	1,975.2	328.4	6.1	12.2	611.0	1,017.4	85.5
	隠岐	9.1	105.0	50.2	886.0	173.6	9.1	-	109.6	593.7	27.4

(注) 平成21年10月1日現在。

資料:「平成21年度医療施設調査」(厚生労働省)

(2) 病院病床の利用状況

- 平成22年の病院の一般病床利用率は、全国平均及び県平均と比較してやや高くなっています。一方、病院の療養病床の利用率は、全国平均及び県平均と比較するとやや低くなっています。
- 平成22年の病院の平均在院日数は、一般病床が23.8日で県平均よりやや長い状況ですが、療養病床は119.2日であり、県平均166.1日と比較すると47日弱短くなっています。

医療圏別医療施設数及び病床数

	病床利用率(%)			平均在院日数(日)			
	全病床	一般病床	療養病床	全病床	一般病床	療養病床	
全国	82.3	76.6	91.7	32.5	18.2	176.4	
島根県	82.2	77.7	88.3	34.0	19.8	166.1	
二次医療圏	松江	84.2	79.7	91.8	38.5	24.3	108.1
	雲南	79.2	79.5	91.1	39.7	23.8	119.2
	出雲	83.0	79.6	92.3	24.6	15.4	177.3
	大田	65.7	47.4	87.6	40.0	16.3	266.5
	浜田	86.4	83.0	82.1	45.1	22.2	497.0
	益田	81.2	76.1	82.6	37.4	18.9	320.9
	隠岐	73.9	79.1	68.6	19.6	15.6	42.2

資料:「平成22年病院報告」(厚生労働省)



8 二次医療圏の受療動向

- 平成20年島根県患者調査の結果では、病院の一般病床及び療養病床等に入院した患者のうち、患者住所地の二次医療圏内にある病院に入院した患者の割合（病院入院における自圏域内完結率）は、63.9%で、他圏域への流出は松江圏へ18.4%、出雲圏へ17.6%と高くなっています。なお、自圏域内完結率は平成17年と比較し3.2ポイント向上しています。

二次医療圏別病院の一般疾病入院患者の流入及び自圏域内完結状況

区分	患者所在地	施設所在地							流出計
		松江	雲南	出雲	大田	浜田	益田	隠岐	
患者数 (人)	松江	2,178	8	48	-	2	1	-	59
	雲南	140	486	134	1	-	-	-	275
	出雲	98	6	1,407	2	4	1	-	111
	大田	43	3	123	422	87	2	-	258
	浜田	16	1	48	45	768	52	-	162
	益田	9	-	20	-	41	744	-	70
	隠岐	69	-	15	-	-	-	110	84
	流入計	476	20	408	50	146	168	1	...
割合 (%)	松江	97.4	0.4	2.1	-	0.1	0.0	-	2.6
	雲南	18.4	63.9	17.6	0.1	-	-	-	36.1
	出雲	6.5	0.4	92.7	0.1	0.3		-	7.3
	大田	6.3	0.4	18.1	62.1	12.8	0.3	-	37.9
	浜田	1.7	0.1	5.2	4.8	82.6	5.6	-	17.4
	益田	1.1	-	2.5	-	5.0	91.4	-	8.6
	隠岐	35.6	-	7.7	-	-	-	56.7	43.3
	流入計	18.6	4.0	22.7	10.6	16.2	21.0	0.9	

(注)1. 一般疾病患者を対象とし、精神及び結核患者を除く。

2. 県外への流出は含まれていない。

3. 平成20年10月のうち1日調査である。

資料:「平成20年島根県患者調査」(県健康福祉総務課)

9 市立病院の診療体制

(1) 病床数の推移

- 雲南市立病院は、昭和 23 年 3 月 1 日に一般病床 50 床で開院しました。その後時代のニーズに対応し、病床数の変更を行ってきています。
- 近年においては、平成 14 年に一般病床を 205 床とし、新たに感染症 4 床、療養病床として回復期 30 床、療養病床 48 床を設置し、精神科病床 50 床と併せて 337 床としています。
- その後、一般病床の病床数の変更を行い、平成 22 年から 199 床としています。
- また、平成 19 年度から一時的閉鎖としていた精神科病床を、平成 23 年 3 月末をもって廃止し、平成 23 年 4 月から一般病床 199 床、感染症 4 床、回復期 30 床、療養病床 48 床の合計 281 床となっています。

◎雲南市立病院の病床数の主な推移

年 月	一般	結核	伝染病	精神	感染症	回復リ ハビリ	療養	計
昭和 23 年 3 月	50							50
昭和 28 年 6 月	86	50	23					159
昭和 38 年 11 月	86	70	23	50				229
昭和 41 年 6 月	230	70	23	50				373
昭和 46 年 4 月	200	50	23	50				323
昭和 48 年 4 月	200	30	15	50				295
平成 3 年 3 月	248			50				298
平成 10 年 2 月	253			50				303
平成 14 年 3 月	205			50	4	30	48	337
平成 19 年 1 月	202			50	4	30	48	334
平成 22 年 4 月	199			50	4	30	48	331
平成 23 年 4 月	199				4	30	48	281

*平成 23 年 4 月 1 日公立雲南総合病院組合を解散し、雲南市立病院へ移行。

(2) 診療科の状況

- 平成 24 年 4 月 1 日現在の標榜診療科は、次の 14 診療科としています。
内科、外科、整形外科、脳神経外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科

(3) 常勤医師数の推移

- 常勤医師数は、平成 15 年 4 月において 33 人体制で、皮膚科を除く全ての診療科において常勤体制を維持していました。皮膚科においても、平成 14 年度までは常勤医体制であり、医師数も 34 人体制となっていました。
- 平成 16 年には精神科・麻酔科が、平成 20 年には泌尿器科・放射線科が、平成 22 年には眼科が、平成 23 年には脳神経外科が、平成 24 年には皮膚科の常勤医が不在となり、平成 24 年 4 月 1 日現在では 18 名体制となりました。
- これら常勤医師の不在は、外来の診療や手術及び入院対応など患者数や収益に大きな影響を与えています。

◎雲南市立病院の常勤医師の推移

(毎年 4 月 1 日現在)

診療科名	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
内 科	10	9	8	6	4	4	3	3	5	4
外 科	4	4	4	4	4	4	3	3	4	5
整形外科	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5
脳神経外科	2	2	2	1	1	1	1	1		
精 神 科	2									
小 児 科	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1
皮 膚 科									1	
泌 尿 器 科	1	1	1	2	2					
産 婦 人 科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
眼 科	1	1	1	1	1	1	1			
耳 鼻 咽 科	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
リハビリテーション科	2	3	3	2	2	1	1	1	1	1
放 射 線 科	1	1	1	1	1					
麻 酔 科	1									
計	33	29	28	25	23	20	18	17	20	18

(4) 職員数の推移

※職員数の推移

(単位:人)

職種	平成20年4月			平成24年4月		
	正規	臨・嘱	計	正規	臨・嘱	計
医師	20	59	79	18	70	88
看護師	136	59	195	127	55	182
看護助手	11	7	18	9	10	19
嘱託介護員		19	19		14	14
嘱託看護補助者		9	9		8	8
薬剤師	7		7	6		6
検査技師	11	1	12	10	1	11
放射線技師	8		8	8		8
事務員	20	2	22	20	4	24
栄養士	4		4	2	2	4
調理師	13	6	19	11	11	22
ボイラ技師	2	1	3	1		1
介護支援	1	3	4		1	1
介護員		4	4		1	1
視能訓練士	2		2	2		2
臨床工学士	1		1	1		1
リハビリ	19	2	21	22		22
合計	255	172	427	237	177	414



(5) 外来患者の推移

ア 診療科別外来患者の推移

- 1日平均外来患者数は、平成19年度は520.5人でしたが、平成23年には404.0人まで減少しています。
- 診療科別の状況においても、平成19年度以降概ね全ての診療科で減少しています。
- 内科、耳鼻科は減少率が少ないですが、脳外科、産婦人科、眼科が大きく減少しています。

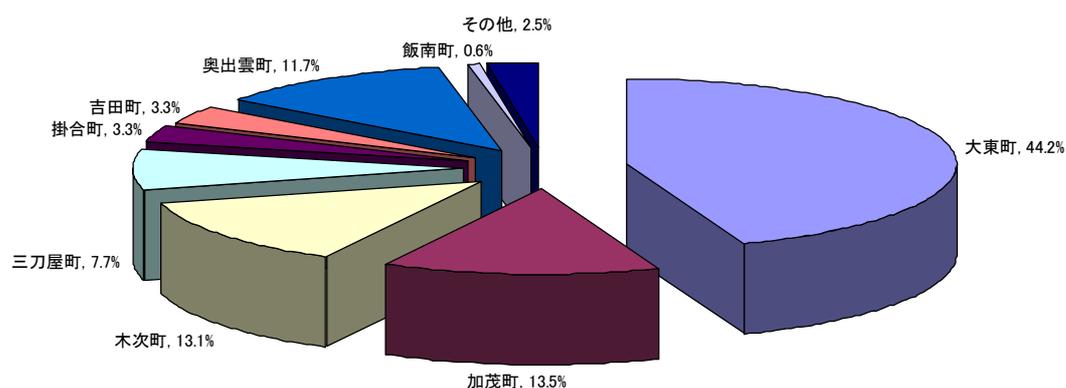
※診療科別の1日平均外来患者数推移

診療科	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
内科	91.0	85.8	84.1	84.7	88.2
精神科	25.1	21.2	20.7	19.8	18.4
小児科	38.8	34.5	32.1	30.3	30.1
外科	35.1	35.8	33.9	31.0	25.2
整形外科	114.9	104.3	90.3	81.3	80.7
脳外科	18.1	15.4	14.2	12.0	6.3
皮膚科	17.5	16.6	15.8	17.8	24.5
泌尿器科	36.3	24.0	28.3	28.6	30.6
産婦人科	14.4	13.8	12.5	11.3	9.7
眼科	52.7	51.4	47.6	35.0	33.0
耳鼻科	46.7	46.2	47.7	48.2	46.1
放射線科	1.8	0.1	0.0	0.0	0.0
麻酔科	1.1	1.1	0.8	1.3	1.3
リハビリ科	27.1	15.9	9.7	10.9	10.0
計	520.5	466.3	437.7	412.2	404.0

イ 患者所在地別外来患者の推移

- 患者所在地別外来患者数の割合は、雲南市が85%以上を占め、奥出雲町は10%程度、飯南町は1%未満となっています。

雲南市立病院の患者所在地別・外来患者の推移



(6) 入院患者の推移

ア 診療科別入院患者の推移

- 1日平均外来患者数は、平成19年度は178.5人でしたが、平成23年には180.3人に増加しています。
- 診療科別の状況においても、外科、整形外科で増加傾向にありますが、小児科、脳外科、泌尿器科、眼科が減少しています。

※診療科別の1日平均入院(一般病床)患者数推移

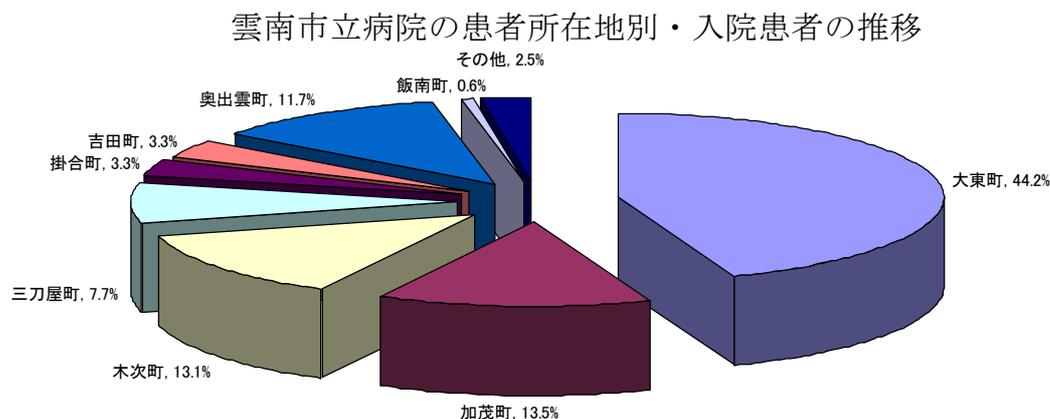
診療科	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
内科	43.1	34.0	30.6	34.0	41.9
精神科	-	-	-	-	-
小児科	3.3	3.3	2.2	1.7	1.2
外科	37.0	38.1	39.3	48.5	53.8
整形外科	71.6	68.4	71.5	82.6	77.2
脳外科	8.4	10.7	7.9	5.7	-
皮膚科	-	-	-	0.1	1.5
泌尿器科	8.7	-	-	-	-
産婦人科	2.5	2.1	1.6	2.1	2.1
眼科	1.5	2.1	1.5	-	-
耳鼻科	2.3	2.4	2.3	3.4	2.5
放射線科	-	-	-	-	-
麻酔科	-	-	-	-	-
リハビリ科	-	-	-	-	-
計	178.5	161.1	152.9	173.5	180.3

※診療科別の1日平均入院(回復リハ病床)患者数推移

診療科	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
内科	6.5	5.9	5.7	4.0	5.2
外科	1.5	0.7	0.6	2.5	3.5
整形外科	16.3	13.0	13.7	16.9	19.2
脳外科	3.1	5.5	3.5	3.3	-
	27.3	25.1	23.6	26.7	27.8

イ 患者所在地別入院患者の状況

- 患者所在地別入院患者数の割合は、雲南市が80%を占め、奥出雲町は14.9%程度、飯南町は1.9%未満となっています。



10 市立病院の概要

(1) 病院の概要

開設年月日	昭和 23 年 3 月 1 日
設置主体	雲南市（開設者：雲南市長 速水 雄一）
管理者	雲南市病院事業管理者 松井 譲
施設名	雲南市立病院
病院長	大谷 順
住所	〒699-1221 島根県雲南市大東町飯田 96-1
職員数	349 名（平成 24 年 4 月 1 日現在）
許可病床数	一般 199 床（亜急性期病床 12 床含む）／感染症 4 床／ 療養 78 床（介護：48 床、医療：回復期リハビリ 30 床）計 281 床
標榜診療科	内科／精神科／小児科／外科／整形外科／脳神経外科／皮膚科／ 泌尿器科／産婦人科／眼科／耳鼻いんこう科／放射線科／麻酔科 ／リハビリテーション科…計 14 科
看護体制	一般病床 :10 対 1 看護 療養病床（医療）：25 対 1 看護（回復期リハビリ病棟） 療養病床（介護）：6 対 1 看護／4 対 1 介護

(2) 指定・認定関係

ア 指定医療機関

- ・ 保険医療指定医療機関
- ・ 救急告示病院（2 次）
- ・ 結核予防法指定医療機関
- ・ 原爆被爆者一般疾病指定医療機関
- ・ 生活保護法指定医療機関
- ・ 優生保護法指定医療機関
- ・ 身体障害者福祉法指定医療機関
- ・ 労災保険法指定医療機関
- ・ 助産施設
- ・ 地域医療拠点病院
- ・ 島根県エイズ協力病院
- ・ 雲南圏域救急医療病院
- ・ 島根県地域リハビリテーション支援センター
- ・ 島根県災害拠点病院
- ・ 島根県第二種感染症指定病院
- ・ 総合リハビリテーション施設
- ・ 労災保険二次健康診断指定医療機関
- ・ 卒後臨床研修指定病院
- ・ 指定自立支援医療機関（精神通院医療）

イ 指定認定基準

- ・一般病棟入院基本料 10対1入院基本料
- ・回復期リハビリテーション病棟入院料 2
- ・療養病棟入院基本料 1(入院基本料1)
- ・救急医療管理加算
- ・乳幼児救急医療加算
- ・診療録管理体制加算
- ・重症者等療養環境特別加算
- ・重症皮膚潰瘍管理加算
- ・小児科外来診療料
- ・高度難聴指導管理料
- ・薬剤管理指導料
- ・検体検査管理加算(Ⅰ)(Ⅱ)
- ・肝炎インターフェロン治療計画料
- ・がん性疼痛緩和指導管理料
- ・CT撮影及びMRI撮影
- ・脳血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
- ・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
- ・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
- ・入院時食事療養(Ⅰ)
- ・亜急性期入院医療管理料
- ・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)
- ・入院時生活療養(Ⅰ)
- ・妊産婦緊急搬送入院加算
- ・ハイリスク妊婦管理加算
- ・医療機器安全管理料(Ⅰ)
- ・輸血管理料(Ⅱ)
- ・医療点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術
- ・無菌製剤処理料
- ・ニコチン依存症管理料
- ・臨床研修病院入院診療加算2協力型
- ・医師事務作業補助体制加算 100対1
- ・急性期看護補助体制加算1
- ・救急搬送患者地域連携受入加算
- ・HPV核酸検出
- ・夜間休日救急搬送医学管理料
- ・開放型病院共同指導料
- ・遠隔画像診断

ウ 専門医・研修施設

①専門医

- ・内科専門医（日本内科学会認定）
- ・消化器病専門医・指導医（日本消化器病学会認定）
- ・消化器内視鏡専門医・指導医（日本消化器内視鏡学会認定）
- ・肝臓専門医（日本肝臓学会認定）
- ・小児科専門医（日本小児科学会認定）
- ・外科指導医（日本外科学会認定）
- ・外科専門医（日本外科学会認定）
- ・産婦人科専門医（日本産婦人科学会認定）
- ・耳鼻いんこう科専門医（日本耳鼻咽喉科学会認定）
- ・脳神経外科専門医（日本脳神経外科学会認定）
- ・整形外科専門医（日本整形外科学会認定）
- ・脊椎脊髄外科指導医
- ・麻酔標榜医
- ・超音波指導医（日本超音波医学会認定）
- ・母性保護法指定医

②研修・教育施設

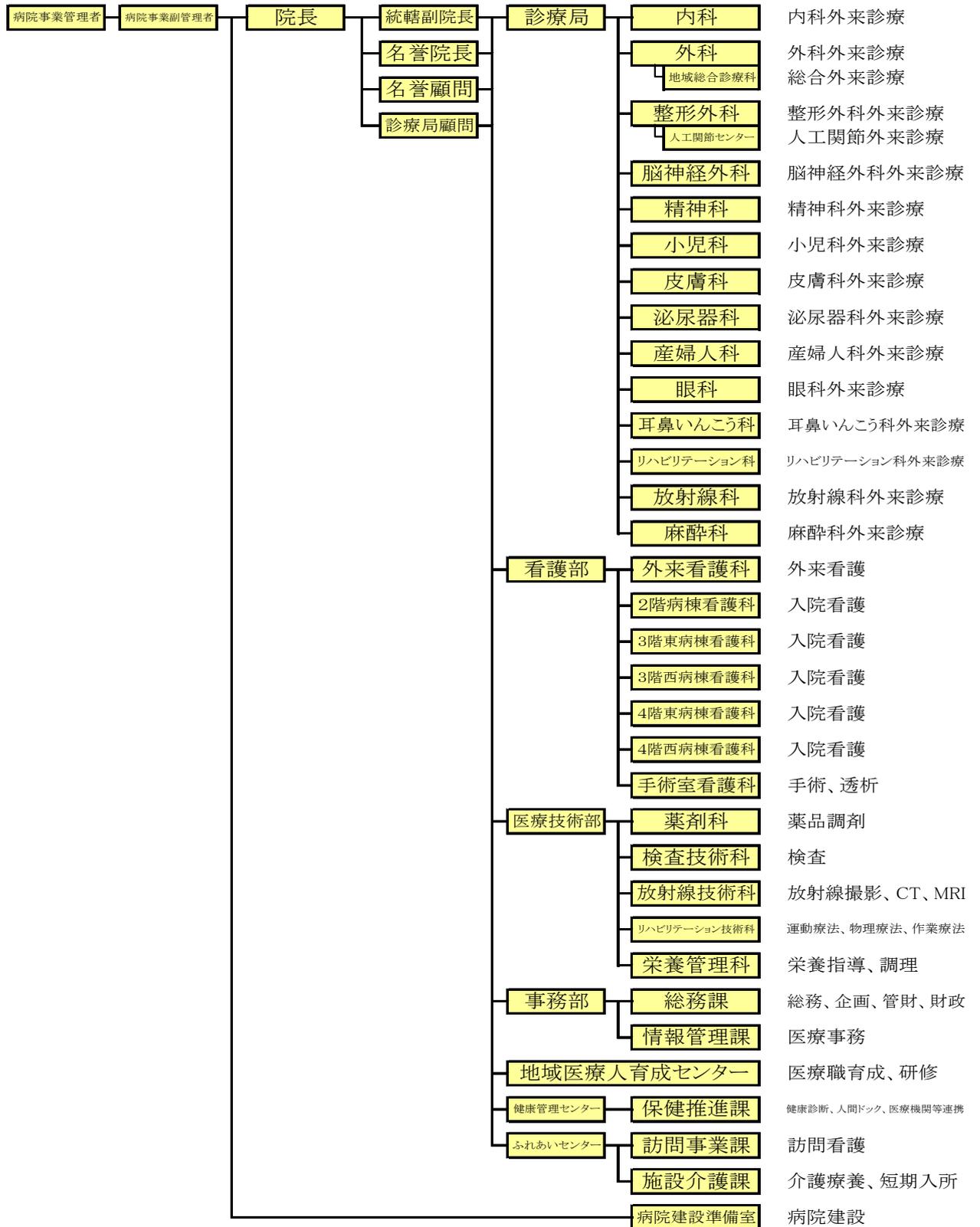
- ・日本外科学会外科専門医・認定医制度修練施設
- ・日本整形外科学会認定医制度研修施設
- ・日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練施設
- ・日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- ・日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設
- ・日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設
- ・日本消化器病学会専門医制度認定指導施設
- ・日本周産期・新生児医学会周産期母体・胎児専門医暫定研修施設

(3) 決算の状況

(単位：百万円・%)

区 分	平成22年度	平成23年度	平成22年度 全自病同規模
病床利用率（一般）	85.4%	88.8%	71.8%
病床利用率（療養）	89.8%	92.6%	80.7%
平均在院日数	19.5日	20.1日	16.2日
1. 総収益	4,166	4,047	4,182
（1）経常収益	3,968	4,047	4,129
（ア）医業収益	3,524	3,572	3,576
（イ）医業外収益	444	475	553
（2）特別利益	198	0	52
2. 総費用	4,026	4,056	4,266
（1）経常費用	4,023	4,056	4,235
（ア）医業費用	3,804	3,843	3,983
（イ）医業外費用	219	213	252
（2）特別損失	3	0	31
3. 経常利益・損失	△ 54	△ 9	△ 105
4. 純利益・損失	140	△ 9	△ 84
5. 内部留保資金 （単年度）	148	207	
6. 総収支比率	103.5	99.8	98.0
7. 経常収支比率	98.6	99.8	97.5
8. 医業収支比率	92.6	92.9	89.8
9. 他会計繰入金対 医業収益比率	14.1	15.0	16.3
10. 他会計繰入金対 総収益比率	12.0	13.2	14.8

(4) 組織・機構図（平成24年度）



1 1 市立病院の施設の状況

市立病院は、14 診療科、一般病床 203 床（感染症病床 4 床含む）及び療養病床 78 床（回復期 30 床、介護療養病床 48 床）の合計 281 床となっています。

病院施設は、概ね 4 つの棟（西棟、東棟、南棟、ふれあい病棟）に分かれ、それぞれ建設時期が異なっており、病棟などの医療に関わる施設の延床面積は 22,908 m²です。

このほかの施設として、医師住宅が単身用と世帯用を含め 38 世帯分の 9 棟、単身 14 人が入居できる看護師寮 1 棟があります。

市立病院の敷地面積（山林部分を除く）は 41,402 m²であり、そのうち駐車場敷地は職員用駐車場を含めて 10,998 m²、医師住宅・看護師寮敷地が 8,008 m²となっており、これらを除く病棟等の病院敷地は 22,396 m²となっています。なお、病院全敷地のうち駐車場等で 10,076 m²を借地としています。

施設の状況は、次のとおりです。

【西棟】	昭和 42 年建設	鉄筋コンクリート	5 階建て
	延床面積：8,229.75 m ²		
	主な機能：1 階 外来・薬剤科・検査科・放射線科・情報管理課		
	2 階 病棟・管理事務・医局・図書室		
	3 階 病棟・分娩室		
	4 階 病棟		

昭和 42 年建設以降、昭和 61 年に C T 棟、平成 5 年に放射線棟（MR）の増築など、これまで 5 回の施設改築を行い現在の規模となっています。施設の本体部分は、建設後 44 年が経過し、給排水管、蒸気管等の衛生施設、電気設備などが特に老朽化しており、大規模修繕を必要とする危機的状況となっています。また、昭和 56 年に改正された耐震基準前の施設であり、耐震の面においても早期の対応が必要となっています。

西棟は、外来や検査機能を始め、一般病床及び回復期リハビリ病床など、市立病院 281 床中 217 床が存在し、病院の中心的機能を持っています。

しかし、平成 13 年医療法の改正により 1 床当たりの床面積が 6.4 m²と拡大されましたが、この基準を満たしていない病床が 122 床あります。

また、近年個室化志向が高まる中、6 人部屋が 11 部屋あるなど、療養環境の改善が求められています。

【東棟】	平成 2 年建設	鉄筋コンクリート	4 階建て
	延床面積：2,950.08 m ²		
	主な機能：1 階 外来・売店		
	2 階 人工透析		
	3 階 病棟		
	4 階 大会議室・水治療室・介護浴槽・一般浴室		

建設後 21 年が経過しており、空調・発電設備などのオーバーホール又は更新を検討する時期を迎えています。また、外壁のタイルに部分的な剥離が生じており、外壁の補修を行う必要があります。

【南棟】 平成 8 年建設 鉄筋コンクリート 5 階建て

延床面積：7,090.04 m²

主な機能：1 階 栄養管理課・厨房・電気室・医療ガス・消防施設

2 階 リハビリ室・保健推進課・訪問看護

3 階 中央手術室・中央材料室・血液造影室

4 階 倉庫（旧精神科病棟）

5 階 食堂・精神科作業療法室

4 階精神科病棟（50 床）及び 5 階精神科作業療法室は、平成 19 年 4 月に一時的閉鎖し、平成 23 年 4 月には閉鎖としました。現在は、倉庫として施設の届出を行っていますが、4 階は集団検診や集団予防時の利用、5 階は精神科関係の外来ミーティング時に活用しています。

また、給排水施設の修繕や外壁タイル部分の剥離などの、修繕が発生しています。

【事務所棟】 平成 2 年建設 鉄筋コンクリート 平屋建て

延床面積：313.44 m²

主な機能：臨床検査室・会議室・更衣室

当初事務所棟として建設し、南棟建設に併せて平成 10 年から現在の臨床検査室などで使用しています。

【管理棟】 昭和 56 年建設 鉄筋コンクリート 2 階建て

延床面積：679.82 m²

主な機能：1 階 リネン倉庫・解剖室・霊安室

2 階 洗濯室・更衣室・カルテ保管庫

建設後 31 年が経過し老朽化しています。

【ふれあい病棟】 平成 14 年開設 鉄筋コンクリート 平屋建て

延床面積：2,682.39 m²

主な機能：病棟・倉庫・会議室

ふれあい病棟は、旧特別養護老人ホーム簸の上園を島根県社会福祉事業団から譲渡を受け、空調・給排水施設及び内装工事などを行い、平成 14 年に介護療養病棟として開設しました。この施設は、昭和 48 年建設部分と、昭和 52 年に増築された古い施設を活用したものであり、介護療養病棟は主に昭和 52 年に増築された部分を病棟として活用しています。

療養病床の入浴施設は、昭和 48 年建設部分に設置されており、両施設間の勾配差が患者及び職員の負担となっています。

【文化倉庫】 昭和 39 年建設 鉄筋コンクリート 平屋建て

延床面積：705.99 m²

主な機能：倉庫

当初精神科病棟として建設しています。南棟建設の際に、精神科病棟を移転したことによって、現在は文書倉庫及び廃棄物一時保管施設として利用しています。

〔ボイラー棟〕 平成7年建設 鉄筋コンクリート 平屋建て
 延床面積：160.00 m²
 主な機能：ボイラー、施設管理室

南棟の厨房や南棟及び東棟の医療機器の滅菌、西棟のスチーム暖房の熱源となっています。建設後16年が経過しており、ボイラー設備の耐用年数15年を超過しています。

〔その他の主な施設〕

発電機棟No.1：平成7年整備
 発電機棟No.3：平成2年整備
 汚水処理場（発電機棟No.2を含む）：昭和55年整備
 汚水処理場（浄化槽）：平成2年整備
 防火水槽：40トン1基、20トン1基

〔医師住宅〕

1 1号住宅：昭和45年建設 木造1戸建て
 （市へ病後児保育所として貸与中）
 1 6号～1 8号住宅：昭和52年建設 木造 1戸建て3棟
 2 1号～2 4号住宅：昭和60年建設 鉄骨2階建て
 2 5号～3 1号住宅：昭和63年建設 鉄骨2階建て
 3 3号～3 8号住宅：平成3年建設 鉄骨3階建て
 5 0号～5 7号住宅：平成6年建設 鉄骨2階建て
 （独身用住宅、研修医専用住宅、一部院内保育所に改修）
 5 8号～6 3号住宅：平成16年建設 木造2階建て（単身用）
 6 4号～6 9号住宅：平成16年建設 木造2階建て（世帯用）

〔看護師寮〕 平成4年建設 鉄筋コンクリート 2階建て
 延床面積：582.36 m²

単身用14室

1 2 主な施設機能等の変更点

項 目		現 在	新病院	備 考
建 物	敷地面積	22,396㎡	約30,000㎡	
	建物構造	鉄筋コンクリート	鉄筋コンクリート	
	建物面積	22,908㎡	約24,000㎡	
病 棟	一般病床数	199床	199床	
	療養病床数	78床 (回復30床、介護48床)	78床 (回復30床、介護48床)	
	感染症病床	4床	4床	
	1床当りの面積	一般病床 平均6.7㎡ 療養病床 平均7.6㎡	一般病床 8㎡以上 療養病床 8㎡以上	
	病室構成	個室、2床・3床・4床・6床室	個室、4床室	
診 療 科	標榜診療科	14科	14科	
	院内標榜科	5科	5科	
主 な 医 療 機 器	MRI撮影装置	1. 0テスラ	1. 5テスラ以上	
	CT撮影装置	4列	16列以上	
	一般X線撮影装置	3台	3台	
	乳房撮影装置	1台	1台	
	X線テレビ装置	2台	2台	
	血管造影撮影装置	1台	1台	
	X線骨密度測定装置	1台	1台	
	生化学分析装置	1台	1台	
	上部消化管システム 【ファイバースコープ】	1台 【経鼻用4本、口腔用2本】	1台 【経鼻用4本、口腔用2本】	
そ の 他	医師住宅	9棟(38世帯)	8棟(31世帯)	
	看護師寮	1棟(14室)	1棟(14室)	
	電子カルテ	平成23年度導入	平成29年度ハード更新	

